

## 『CEIDS 学術交流セミナーのご案内』

環境イノベーションデザインセンターでは、下記のとおり、セミナーを開催致します。

### 【第3回】

講演者：後藤 圭二氏（吹田市 環境政策推進監）

タイトル：『吹田市環境まちづくり戦略 - 低炭素社会実現への社会的責任 -』

日時：12月21日（火）10時—12時

場所：吹田キャンパス 先端科学イノベーションセンターA棟 1F セミナー室

#### 《発表要旨》

人類の存続にとって今や最重要課題である気候変動問題、その原因である地球温暖化、その主因である大気中の二酸化炭素濃度の上昇。 the point of no return に立つ者として、未来世代の命を守る責務をいかに果たすのか。グローバルかつ中長期的な難問に対して、（あまりに）ローカルな一自治体が何を政策決定し、何を実践しようとしているのか。併せて、二酸化炭素多量排出者の社会的責任を共有し今後につなげたい。

### 【第4回】

講演者：鎗目 雅氏（東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授）

タイトル：『サステナビリティ・サイエンスにおけるイノベーション  
・システム・アプローチの可能性と課題』

日時：12月28日（火）14時—16時

場所：吹田キャンパス 先端科学イノベーションセンター 先導的研究棟（D棟）2F 会議室

#### 《発表要旨》

現在、エネルギー・水・食料資源に関わる長期的な制約から、地球規模でのサステナビリティに対する懸念が世界的に強まっている。このような科学技術、経営、政策、制度が相互に複雑に絡み合う問題に対しては、各個人や組織がそれぞれ単独で対処していくことがきわめて困難であり、ネットワークを通じて多様な主体が共創的に取り組むことにより、社会レベルでのイノベーションを創出していく必要がある。サステナビリティ・サイエンスにおける学問的アプローチの概要を紹介し、自然・人間・社会システム間の複雑でダイナミックな相互作用を理解するための新たな概念や方法論の開発が求められていることを踏まえた上で、特にイノベーションに関わる様々な機能を同定し、その関係性を分析することでイノベーション創出のメカニズムを解明しようとするイノベーション・システムのアプローチの可能性と課題を議論する。

## 【第5回】

講演者：梶川裕矢 氏（東京大学 大学院工学系研究科総合研究機構イノベーション政策研究センター 特任講師）

タイトル：『集合知による知識の構造化と行動の構造化』

日時：1月21日（金）14時—16時

場所：吹田キャンパス 先端科学イノベーションセンター A棟 1F セミナー室

《発表要旨》

持続可能性に関する研究は、自然科学や工学、社会科学など様々な領域で行われている。多くの科学者がそれぞれの領域において、解決困難な問題に挑戦し、日々研究活動を進め、新たな知識を生産している。しかし、そのようにして生み出される知識の多くは断片的であり、問題を特定の側面からのみ捉えているにすぎない。知識を蓄積することは有意義であるものの、単一の学問領域の知識だけでは、全体像を捉えきれず、持続可能性という複雑な課題に対し適切な解決策を提示することができない。では、どのようにすればよいのだろうか。その鍵を握るのが、集合知であり、集合知による知識の構造化、行動の構造化である。本発表では、講演者が取り組んでいる、ネットワーク分析や自然言語処理、オントロジーといった情報技術、ならびに、経営学や政治学等の知見を用いた、知識の構造化、ならびに、行動の構造化に関する研究成果を紹介し、参加者の皆様と今後我々が行うべき課題について議論を行いたい。

## 【第6回】

講演者：中山幹康 氏（東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授）

タイトル：To Be Announced 【近日中にご連絡致します】

⇒（国際河川の管理、水の分配と係争・協調に関連する話題となる予定です。）

日時：1月25日（火）午後（予定）

場所：吹田キャンパス 先端科学イノベーションセンター A棟 1F セミナー室

6回については、詳細が確定次第、ご連絡いたします

（\*なお第6回は、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）との共催となります。）